

親子支援だより ほっと通信 10月号 No.6

平成30年10月1日 浜松学院大学付属幼稚園【発行】教頭：山梨明子【添文】心の相談員：中島祐子

毎日、家事や育児を頑張るお母さん。このおたよりに読みながら・・・
① ほっとひと息ついて ② ホッと安心し ③ ホット (HOT) な温かく優しい
気分になりますように…♡ いつでも応援しています。共に歩みましょうね！

今月も右下矢印の「感想」でお寄せいただいた内容がテーマです。9月号の続きからお読みくださいね！

★★★★★ 「親子で過ごした付属幼稚園での14年間」 永岡由二子 ★★★★★

それら個性満載の5人の我が子について…私は自分の心の中に5人分の『取り扱い説明書』を作ったのです。例えば、自閉症の長男にはわかりやすいルールを敷いてやるのが大事。ダウン症の次男は時間がかかっても必ずできるようになるから長い目で見守る。三男は傷つきやすいから小さな変化を見逃さない。長女はある程度任せたい方がいけど甘えたい気持ちがあることを忘れない。次女は周りに気を遣いすぎる面があるから我慢していないか気を付ける…等。それぞれの性格に適した叱り方、ほめ方、声をかけるタイミングなどがあるので、個々に異なる取説が必要になるわけです。ただその取説の様式がちよっと特徴的なのが障害児であり、その取説を知らないと周囲の人や物事とのトラブルにつながったりするのです。ですから「もしかしてうちの子はグレーゾーン？発達障害かしら？」と悩んでいる方がいたら、あまり深刻にならず「うちの子の取説はなんだろう？」と考えてみてください。もちろん幼稚園の先生や療育の専門家に相談し、ヒントをもらうのも良いですね。このような取説をつくることは、我が家だけが特別ではありません。現に付属幼稚園の先生と周囲の子ども達は、在園の3年間で一人ひとりに合った取説を自然に入手し、我が子たちにうまく寄り添ってくれました。そんなところがこの園を選んでよかったと感じたことですし、私自身を大きく変えてくれた付属幼稚園にとっても感謝しています。子どもが何かで行き詰まったとき、トンネルから抜け出せないときは母親の私が変わらなければ子どもの状況も変わらない…と痛感することが多いです。今では「シフトチェンジすれば全然違う風景が見えてくるよ」と、思い悩んでいた15年前の自分に教えてあげたい気持ちです。これからも私たちに関わってくれたすべての先生や子どもたちやママさんたちに感謝しながら、家族皆で楽しく過ごしていきます！ ★★★★★

…いかがでしょうか。発達障害のみならず人や物事の理解において『知らないことそのものが障害』と捉えたと、この永岡さんの言う『取り扱い説明書』を知ろうとせずに関わる(過ごす)ことそのものが障害…と言えるのではないのでしょうか。園でも子ども一人ひとりの個性を大事しながら園生活を過ごしていますが、お母さんたち同様に悩んだり葛藤したりすることが多々あります。それでも、クラスの皆が笑顔で過ごせるには？この子が楽しく適応できるには何が必要か？…まずはそれを知る努力をします。そして試みます。もちろんうまくいくことばかりではありませんが、その試行錯誤の過程にできあがっていくのが、永岡さんの言われる『取説』。つまり、園では『個々に応じた関わり』と『クラス全体にとって心地よい保育』になるのでしょう。『みんなちがってみんないい』まさに金子みすゞさんの詩のような心持ちでありたいと思うのです。山梨

少しずつ涼しくなり、夜空を見上げると、秋の虫達の羽音にうっとり聞き惚れているような、「いいお顔」のお月さまに会えるのが楽しい季節となってきました。

今月は、久しぶりに個性派の長男の付属幼稚園の頃(約20年前！)を振り返り、綴りたくりました。長男は、歩きコースの集合場所の公園では、他の子がキャッキヤとお友達と遊ぶ中、黙々と土の中のタイル掘りを楽しんでいました。(小1の時は、休み時間にひとり虫を追いかけ授業開始に気づかなかったことも…)そんな息子の興味と一緒に共有できた時もあれば、「どうしてうちの子だけみんなと遊ばないの？」と周囲と比べ、辛くなってしまった時もありました。年少時代、息子は、帰宅後に特に友達と遊びたがりませんでした。友達の話も出てきません。そんな息子に、「みんなのようにお友達と遊べるようになって欲しい」という一心で、本人に確認することなく親同士で遊ぶ約束をしていました。そんな時息子は、隅っこの狭いところに入り込み、緊張した様子で周囲を伺っていたり、ひとりで絵本を読んでいたりしていました。親の気持ちだけで遊ばせた日の夕方は、ぐずったり、おねしょをしたりがありました。

息子は、周りのペースに合わせるのが苦手な人で、自分のペースでとことん自分の興味を追求したい人、みんなと一緒に活動するより自分の世界の中で楽しみたい欲求が強い人(パパと似てる！)…そんな彼にとって、園での初めての集団生活は、とりわけハードルが高かったことでしょう。エネルギーを使い果たして帰宅し、家の中でじっくり自分のペースで過ごすことでバランスを取りたかったのだなあと、今は思えるのです。その時の私は、浅はかにも「子どもというものは、いつまでも友達と遊んでいたいもの…」そう思い込み、息子の側に立って彼の気持ちに思いを馳せることができず、一人目の子育てで先の見通しも立てられず、他の子と一風違う息子の行動に戸惑ったり、不安になったり…未だに胸が痛みます。けれども、当時の白組の先生が、このような息子のユニークさを思いつき楽しんで下さっているエピソードをお便り帳で沢山伝えて下さり、息子ならではのユニークさを、私も少しずつ楽しめるようになりました。

息子はその後、他の子よりは、集団活動に入ったり友達に興味を持ったりするのは遅かったけれど、彼の成長のペースで持ち味はそのままだに、集団生活や友達関係にも彼なりに馴染み、楽しめるようになっていきました。息子の特性を丸ごと認め、寄り添いながら、工夫を重ね導いて下さったお陰です。大人になった今では、自分の特性を活かせる仕事を選び、似たような感性を持つ友人達と、仕事の合間のリフレッシュを満喫しています。息子のユニークな感性を信じる力の弱かった私が救われたのは、周囲の温かな眼差しのお陰…生涯感謝の思いです♡

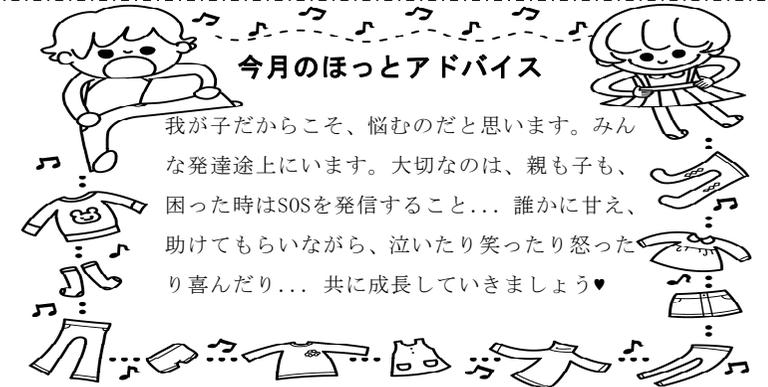
♡♡♡心の相談員：中島祐子♡♡♡

◆◆中島さんよりコメントを仰せつかったのでひとこと。上記『白組の先生』…実は私のことなのです。担任をしていたのは随分と昔のことなのに、今でもこの長男の好奇心旺盛な輝く目、抱っこしている時の感覚、友達と楽しめるきっかけをあれこれ試した事などを鮮明に覚えています。それらは、この長男くんに限らず感性豊かな子どもたち全てについて同様です。また、私は子どもたちの反応や姿から教わるのがたくさんありました！個性輝く素敵な子ども時代…その時期に、私たちが『先生』として子どもたちと一緒に過ごせることは何よりの幸せ。そして私たちの心を多方面から揺り動かしてくれる子どもたちに…毎日感謝の思いでいっぱいです！◆◆山梨明子◆◆

お寄せ頂いた「感想」より (9月号同様) (文章からの抜粋および要約箇所あり)

◎毎月この通信を楽しみに読んでいます。我が子が発達障害だということもあり、ダウン症や発達障害についてまだまだ知らない方がたくさんいることを知ったので、是非皆さんに少しでも知っていただけるといい通信の月があればいいなあと思っています！

今月のほっとアドバイス



我が子だからこそ、悩むのだと思います。みんな発達途上にいます。大切なのは、親も子も、困った時はSOSを発信すること…誰かに甘え、助けてもらいながら、泣いたり笑ったり怒ったり喜んだり…共に成長していきましょう♡

10月カウンセリング予定

- ★10月4、11日(木)空きはありません
- ★10月19日(金)空きはありません
- ★10月25日(木)11:00～、13:00～可能

11月カウンセリング予定

- ★11月1日(木)9:00～、11:00～13:00～可
- ★11月8日(木)全ての日程が可能
- ★11月15日(木)10:00～、11:00～、13:00～可
- ★11月21日(水)9:00～、10:00～、11:00～、12:00～可

◎カウンセリングは守秘義務を厳守します。また、カウンセリングの対象は付属幼稚園の保護者となります。

予約の際は、在園保護者を優先しますが、空き状況により、当園に入園する未就園児保護者と、当園卒園の保護者(卒園から1年以内に限る)を対象に予約をお受けすることができます。未就園児のお子さんは1回1000円で託児を依頼することも可能です。

◎カウンセリングの予約は、幼稚園に電話(☎472-5193)をし、希望の日時をお知らせください。その場で空き状況をお伝えして日時を決定します。1回のカウンセリングは50分間の予定です。(幼稚園の会議室で実施します)

